基本評価シート 様式

イノシシ

(宮崎県 環境森林部自然環境課)

# 基本評価シート (イノシシ)

## 1. 事業の基本情報

事業名 (※1)	指定管理鳥獸捕獲等事業実施計画策定等					
	指定管理鳥獣捕獲等					
	効果的捕獲促進					
都道府県名	宮崎県	担当者部・係名	自然環境課			
担当者名	甲斐 央浩	担当者連絡先	0985-26-7291			
捕獲実施事業者	(株)マツダコーポレー	予算額 (※2)	24, 064, 741 円			
	ション (認定を受けてい 予算額の内捕獲に要 8,503,000					
	<i>৩</i>	する経費 (※3)				

- (※1) 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。
- (※2) 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。
- (※3) 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成 28 年度から適用される交付金所要額調書様式1-2 「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別 途加算する。

# 〇令和5年度における生息等の状況及びこれまでの個体群管理の取組み

## 〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標	実施結果		
(目標頭数などの数値目  標)	捕獲頭数	目標達成率	
50 頭	50 頭	100%	

## 〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
_		_
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲 (個体数調整)
3,771 頭	17,234 頭	0頭

# 〇これまでの個体群管理の取組み(都道府県単独事業)

○狩猟における狩猟期間の延長、捕獲数制限の解除、くくりわなの輪の直径の制限の解除 ○有害捕獲において捕獲班活動支援(経費の一部助成)、農水省の交付金及び県単事業に より 7,000 円/頭の助成

### 2. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	記述欄:宮崎県において、イノシシは県下全域に生息しており、農林作物
	への被害額は平成 24 年度の約5億円をピークに令和3年度は約1億1千
	万円と減少傾向ではあるものの、未だ深刻な被害が続いている。
	また、本州では野生イノシシによる豚熱の感染が拡大しており、感染拡
	大対策として、イノシシの捕獲強化が必要である。
	このような状況を踏まえ、本県では「第二種特定鳥獣管理計画(イノシ
	シ)」を策定し、イノシシによる農林作物への被害額を令和8年度までに
	9千万円以下にすることを管理目標としている。

	この目標を達成するため、狩猟、有害鳥獣捕獲に加え、当事業により集中的に捕獲を実施することにより、捕獲の強度を高める。
	【選択欄】  ☑ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乗せした。  □ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。  □ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。
人材育成の観点	□ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和5年9月~令和6年2月
実施区域	日之影・延岡地域(見立地域、二股鳥獣保護区、行縢山鳥獣保護区、旧延 岡鳥獣保護区)
関係機関との協力	
事業の捕獲目標	( 100%達成) = ( 50 実績値)/( 50 目標値)
捕獲手法	【銃猟】 □ 誘引狙撃 □ 巻き狩り □ 忍び猟 □ モバイルカリング □ 夜間銃猟 □ その他 ( )
	【わな猟】 ☑ くくりわな □ 箱わな □ 囲いわな □ その他 ( )
捕獲個体の確認方   法	<ul> <li>☑ 個体の身体の一部(尾)</li> <li>☑ 写真(詳細を記載:腹部に個体番号をマーキングした捕獲個体・捕獲情報を記載したホワイトボード等・捕獲者が一緒に写った写真×1枚、個体番号の上に横線等を見え消しマーキングした状態の写真×1枚)</li> <li>☑ その他(</li> </ul>
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について  ② 全て焼却又は埋設を行っている。 ③ 一部、食肉等への活用を行っている。 ⑤ 一部、放置を認めている。
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について <ul><li> 錯誤捕獲の情報を収集している。</li><li> 錯誤捕獲の実態は不明である。</li></ul>
	わなによる錯誤捕獲の未然防止について <ul><li>錯誤捕獲の防止対策をしている。</li><li>(内容:鳥獣保護管理法第9条に基づく錯誤捕獲に係る許可 )</li><li>錯誤捕獲の防止対策はしていない。</li></ul>
	鳥類の鉛中毒等について ☑ 鳥類の鉛中毒症例がない。 □ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。

安全管理の体制	安全管理対策として、以下のとおり実施した。
	・作業日程についての関係機関へ通知
	・作業実施前の注意喚起標識設置
	・安全講習会の実施
	・作業前・作業後のミーティング実施
	・事故発生時の緊急連絡体制を整備
捕獲従事者の体制	【雇用体制】
	捕獲従事者数: 11人
	(内訳)
	正規雇用者: 11人、期間雇用者: 人 日当制: 人

# 3. 令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

# 〇指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関す	る評価及び改善点**
	評価:捕獲目標を達成できた。
【目標達成】	改善点:   目標は達成したが、当初予定していた箇所において捕獲実績がない箇所
	もあるため、効果的なわなの設置方法や設置箇所等について検討が必要で
	ある。   評価:概ね適切である。
【実施期間】	改善点:
	以音/// ·
	評価:日之影町見立地区及び鳥獣保護区(3箇所)で捕獲
【実施区域】	改善点:見立地区は効率的な捕獲を行うため、捕獲区域の拡大を検討する
	必要がある。
	評価:適切である (くくりわなによる捕獲)。
【捕獲手法】	   改善点:特になし。
	以音点・付になし。 
2. 体制整備に	関する評価及び改善点
	評価:適切である。
【実施体制】	改善点:特になし。
	評価:適正に処理された。
【個体処分】	改善点:特になし。
【1四15231 唐】	評価:適切である。
【環境配慮】	改善点:特になし。
	評価:緊急時の連絡網が整備されるなど、常に連絡が取れる体制で捕獲を
【安全管理】	実施できた。
	改善点:特になし。
3. その他の事	- 項に関する評価及び改善点

# 4. 全体評価

目標捕獲頭数は達成できたが、農林被害額を低減させる必要があるため、引き続き同地 区で捕獲を実施する必要がある。

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について 記入する。

# 〇第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

狩猟による捕獲が実施できない地域での捕獲頭数の上乗せに寄与したと考える。また、農林水産被害額が減少傾向であることから、捕獲による農林水産被害の抑制に寄与したと考える。

# 4. 必須となる記録項目

# (1) データの整備状況

## ア) 基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
① 捕獲数・	□ 行政区域(都道府県・市町村)ごと	
目撃数・	☑ 事業区域ごと	
捕獲努力	☑ 5kmメッシュ	
量等の位	□ 1kmメッシュ	
置情報	□ 捕獲地点(緯度経度)	
	□ 捕獲等に関する位置を記録していない	
② 捕獲数	☑ 捕獲した個体の総数	
	☑ 雌雄の別	
	☑ 幼獣・成獣の別	
	☑ その他捕獲した個体に関する情報	
	(胎児の有無、角の形状、体重、体長、後足長)	
③ 目撃数	☑ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	□ 銃猟:のべ作業人日数※	
	☑ わな猟:わな稼働日数	
	(わな稼働日数=わな基数×稼働日数)	

※のべ作業人日: 捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の 人日数は除く。

## イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

	作成できる概況図(地図)*についてチェック
捕獲位置の地図	☑ 5 k m メッシュ地図
	□ 地点(緯度経度)地図 □ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☑ 5 k m メッシュ地図
	□ 地点(緯度経度)地図 □ CPUEの地図を作成できない
SPUE の地図	☑ 5 k m メッシュ地図
	□ 地点(緯度経度)地図 □ SPUEの地図を作成できない
概況図を作成する	
上での課題	

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

# (2) 実施結果(必須となる記録項目)

- ア) 捕獲努力量に関する事項
- ①銃器による捕獲

外業の人日数総数\*1:- 人日事前調査人日数概数\*2:- 人日

出猟(捕獲作業)人日数: 一人日

項目	令和4年 (事業年度の値)	令和3年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量(銃猟) のベ人日数	-人日	-人日	□増加 □減少

※1:事前調査人日数概数と出猟(捕獲作業)日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

## ④ わなによる捕獲

外業の人日数総数\*1:332人日事前調査人日数概数\*2:0人日出猟(捕獲作業)人日数:332人日

項目	令和5年 (事業年度の値)	令和4年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量(わな猟) わなの稼働総数(わな基×日数)	4, 660 基日	_	□増加 □減少

※1:事前調査人日数概数と出猟(捕獲作業)人日数の合計

※2:事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

### イ) 捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項目	令和4年	令和3年	増減の傾向
	(事業年度の値)	(前年度の値)	
① 捕獲数	一頭	一頭	□増加 □減少
② 目撃数	一頭	一頭	□増加 □減少
③雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	_	ı	□増加 □減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	_	_	□増加 □減少

※雌雄比、幼獣・成獣比については捕獲数が1頭のため増減の傾向について算出していない。

# 令和4年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(銃器)の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数※1	CPUE**2	SPUE <sup>**3</sup>
□ 誘引狙撃	頭	人日	頭/人日□増加□減少	頭/人日□増加 □減少
□ 巻き狩り	頭	人日	頭/人日□増加□減少	頭/人日□増加 □減少
□ 忍び猟	頭	人日	頭/人日□増加□減少	頭/人日□増加 □減少
□ モバイルカリング	頭	人日	頭/人日□増加□減少	頭/人日□増加 □減少

一 本目を大災	==	L	頭/丿	日 頭/人日		
□ 夜間銃猟	頭	人日	□増加 □減			
□ その他 ( )	頭	人日	頭/人 □増加 □減			
※1:作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。						
※2: CPUE=捕獲数/のベ人日数						
※3:SPUE=目撃数/のべ人日数	女					
※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。						
③ わなによる捕獲						
	令和5年	令	和4年	増減の傾向		
	(事業年度の値)	業年度の値) (事業年度の値)				
① 捕獲数		50 頭 —		□増加 □減少		
②雌雄比 (雌捕獲数/全捕獲数)	0. 48	3	□増加□減少			
③幼獣・成獣比 (幼獣数/全捕獲数)	0.48 — □増加 □減		□増加 □減少			
令和5年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別(わな)の捕獲実績       おな稼働総数*1       CPUE*2						
	50 頭	12.013	4,660基日	0 011 皕/其口		
□ 箱わな	頭		基日	頭/基日 □増加 □減少		
□ 囲いわな	頭		基日	頭/基日□増加□減少		
□ その他 ( )	頭		基日	頭/基日□増加 □減少		
※1:わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。						
※2: CPUE=捕獲数/わな稼働日数						
※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。						
エ)捕獲個体の適切な処理						
処理にかかる人工概数: 人・時間						
	八・时	ĦJ				

適正な捕獲が実施されたかを確認する手法

成果品及び業務成果に関する報告書の作業工程毎の状況写真

捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙擊	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する
	猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃
	器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により
	捕獲等する猟法。
車両を用いたモ	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器に
バイルカリング	より捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後におい
	てする銃器を使用した鳥獣の捕獲等。